

西北地区統合校開設準備委員会（第4回）概要

日時：令和元年12月23日（月）

13：30～15：00

場所：プラザマリュウ五所川原 1階 アリシア

<出席者>

委員

福原 直樹 委員、平川 昌史 委員、隅田 佳文 委員、幸山 勉 委員、
尾野 勝 委員、藤田 重彦 委員、成田 正義 委員、阿部 広悦 委員、
長尾 孝紀 委員、中野 雄臣 委員、永澤 正己 委員、佐井 憲男 委員

オブザーバー

県立金木高等学校

加藤 聖子 教頭、佐藤 泉 事務長、今 譲 教務主任

県立板柳高等学校

中畑 要 教頭、山本 美千代 事務長、東海 賢治 教務主任

県立鶴田高等学校

川嶋 幹二 教頭、外崎 和子 事務長、山内 拓雄 教務主任

県立五所川原工業高等学校

津島 節 教頭、橘 壽雄 事務長、工藤 和樹 教務主任

成田 秀造 情報技術科主任

1 開会

2 事務局説明

(1) 第3回西北地区統合校開設準備委員会における主な意見

■ 事務局から資料1により第3回西北地区統合校開設準備委員会における主な意見について説明するとともに、閉校後の校舎の利活用に係る検討の考え方について説明した。

■ 第3回西北地区統合校開設準備委員会後に提出された意見等記入票による意見として、記念物品の展示について「それぞれの地区で展示できるよう方向性を出してもらいたい（各地区で対応がバラバラにならない方が良い）。」とあったことから、委員長から市町村教育委員会教育長である委員に対し、各市町における記念物品の展示の可能性について意見を求めた。

■ 委員から次のような意見があった。

○ 市町村合併により旧金木町は五所川原市となったが、金木高校は旧金木町に所在する高校であり、地元である金木地区に記念物品を展示することが優先さ

れるべきだろう。現在の金木庁舎であれば展示スペースを確保できたと思うが、五所川原市では金木庁舎を新築中であり、新庁舎はコンパクトになるため、記念物品を全て展示することは難しいと考える。例えば、金木高校の校舎に展示することも考えられるところであり、展示場所に関しては、現時点では回答できかねるところである。ただ、大切なことは金木高校のPTAや同窓生等の思いを聞きながら記念物品の展示について検討を進めることである。記念物品の一部を五所川原市の庁舎や公民館に展示することも考えられるが、展示するスペースを確保できるか確認が必要であり、最終的には市長の判断となる。繰り返しになるが、現在の金木高校関係者の意見を聞きながら対応していくのがよいと考えている。

- 前回の開設準備委員会終了後、鶴田高校から鶴田町に対し記念物品の展示について相談があったことを確認した。鶴田町としては、旧水元小学校の校舎を活用した歴史文化伝承館内の教室の半分程度のスペースであれば展示が可能である。

また、旧水元小学校の校舎は、鶴田高校の前身である五所川原高校水元分校として数年間利用していた時期があったこともあり、その意味でも記念物品を保管しても良いと考えている。ただ、記念物品の量がどのぐらいになるかわからないので、今後協議が必要であると考えている。

- 板柳高校卒業生は板柳町に多くいる。第3回委員会でも意見があったように、卒業生の板柳高校に対する思いは大変熱いものがあり、そのことを考えると板柳高校の記念物品を簡単には廃棄はできないだろう。基本的には記念物品を保存したいと考えているが、展示する施設を確保できるのか、施設を確保できたとして記念物品を収納できるだけのスペースが果たしてあるのか、あるいは展示場所を設けるとすれば、財政的なことを考慮する必要があると考えている。基本的には、板柳町に記念物品を残して展示するということが望ましいと考えるが、今後、町理事者を始めとする関係者等と協議を重ねながら検討していくことであり、この場で記念物品の展示場所等について、はっきりとは言えない状況にある。

先ほど県教育委員会から校舎の利活用の検討については、正式に募集停止が決定してからという説明があったが、今後、町として展示場所を検討していく上で、できれば県の意向を早めに知りたいというのが各市町の思いである。

- 県教育委員会に確認したい。閉校となる学校の敷地や建物は、将来的に県で活用を模索しながら処分することになると思うが、各校の敷地にある石碑等を活用して、統合対象校が所在したことを示すモニュメントを設置することは可能なのかを伺いたい。また、最終的には更地にするなどして、売却や市町村への委譲等の手続きをしていくことになるかと思うが、今後の方向性について伺いたい。

→（事務局）石碑等のモニュメントについてであるが、校舎の利活用を検討していく際、これまでも市町村や各校の後援会の意向を伺い、その意見を考慮した上で利活用を進めてきたところである。

先ほど県による校舎の利活用の意向等を早く知らせてほしいという話があったが、通常はその施設が廃止となる3年前に、県庁内の利活用推進会議の案件としているところである。しかしながら、学校施設については、他の施設に比べて、地元の市町村の意向が非常に大きいと考えており、先ほど事務局説明であったように、前倒しして対応していきたいと考えている。

今年度開催された利活用推進会議には既に情報提供し、県庁全体での利用調整を図っているところである。したがって、募集停止が正式に決定した時点で、速やかに各市町村に対し照会するような形で進めたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

3 意見交換

（1）校章・校歌・制服の方向性について

■ 委員長から事務局に対し、校章・校歌・制服の方向性に係る意見交換の進め方等について説明を求め、事務局から資料2により説明した。

①校章の方向性について

■ 委員から次のような意見があった。

○ 第3回委員会で絞り込んだ5つの校名案候補にふさわしい校章にすべきと考える。また、校歌、制服の方向性としては、既存のものではなく全く新しい方向で考え、新たなスタートができれば良い。

私は西北五地区の高等学校PTA連合会の会長を務めているが、その会議終了後に出席者からは、「新しい学校ができて、新しい気持ちでスタートするのだから、校章、校歌、制服は全て新しくするべきだ」という意見が多く寄せられていることをお知らせしたい。

○ 新たな校章を定める、または五所川原工業高校の校章を引き継ぐという意見は、どちらも正しい考えであると思うが、第3回委員会で1名の委員から意見があった「校名が五所川原工科高校になった場合、工業高校の校章を引き継ぐ、そしてそれ以外の校名となった場合には新たに校章を制定してはどうか」という意見に賛成である。

■ 委員長から、校章の方向性について報告書（案）への記載に関する意見を求めたところ、委員から次のような意見があった。

○ 私の意見としては、前回委員会で話したとおり、新たな解釈を加え、五所川原工業高校の校章を統合校のシンボルとして活用していけると思っている。様

々な意見はあると思うが、良い方向の結論となればいい。

- 委員長から、校章については新たに制定すること、または五所川原工業高校の校章を引き継ぐことの両論併記とし、新たに制定する場合の制定方法については公募またはデザイナー等への委託により制定する方向で検討を進める旨確認し、委員から了解された。

②校歌の方向性について

- 委員長から校歌の方向性について追加意見を求めたところ、委員からは特に意見はなかった。
- 委員長から、校歌については公募または学校関係者により新たに制定する方向で検討を進める旨確認し、委員から了解された。

③制服の方向性について

- 委員長から制服の方向性について追加意見を求めたところ、委員から次のような意見があった。
 - 第3回委員会では、制服を一新するという意見と五所川原工業高校の制服を引き継ぐという意見があったが、いずれにしても昨今言われているLGBT(性的少数者)等の子どもたちへの対応も考慮した機能的な制服を検討していかなければならないと思う。男子用、女子用と固定した考え方ではなく、柔軟性を持って対応できるように、機能面で検討していく必要がある。
- 委員長から、これからの時代に合わせた機能的で使いやすい制服を新たに制定する方向で検討を進める旨確認し、委員から了解された。

(2) 西北地区統合校開設準備委員会報告書(案)について

- 事務局から資料3により西北地区統合校開設準備委員会報告書(案)について説明した。
- 委員長から、統合対象校の記念品の展示の項目について、市町村教育委員会教育長である委員の意見を主な意見に追加し、それらの意見を踏まえゴシック体を「記念物品については、各市町における展示を視野に入れつつ、展示内容等について、更に検討を進めてもらいたい。」と修正する旨確認し、委員から了承された。
- 委員長から報告書(案)に対する修正意見を求めたところ、委員からは報告書(案)に対する修正意見はなかった。

■ 委員長から各委員に対し、これまでの協議を終えての感想や統合校に期待すること等について発言を求めた。

○ 今年度4回開催された開設準備委員会が終了した。佐井委員長を初め、委員及びオブザーバーの皆様、また、開設準備委員会終了に至るまで、準備に当たった県教育委員会事務局に感謝申し上げます。

来年度は開設準備室を設置し、再来年度はいよいよ統合校が開校することになる。これから様々な課題等があるかと思うが、県教育委員会には統合校がスムーズに開校できるよう準備を進めていただこうお願いしたい。

○ 以前は金木地区に住んでいたが、現在はつがる市稲垣に住んでいるため、金木高校を代表して開設準備委員会に出席することに少し抵抗感があった。しかし、統合対象校の代表として4回の開設準備委員会に加わることができたことに感謝申し上げます。

○ 統合校に期待することを述べたい。統合校が所在する1市2町はもちろんのこと、それ以外の自治体からも統合の対象となっている4校へ生徒が通っており、また、その保護者が子どもたちを通わせている。新設される統合校においては、子どもたちや保護者のニーズを一つでも多く酌み取って、輝かしいスタートを切るとともに、輝かしい未来を作っていただきたい。そして、統合校を巣立った生徒たちの一人でも多くが、この地域に貢献できるような人財となれるよう、統合校において地域に根差した教育活動に取り組んでほしい。

○ PTAとしては、実は鶴田高校がなくなることに對して、今でも本当につらい思いがある。しかし、新設される統合校については、子どもたちが「この学校で学ぶことができ良かった」、そして保護者も「この学校に入れて立派になった」と思えるような学校を作り上げていただきたい。

○ 私と鶴田町教育委員会教育長は、第1期実施計画策定に向けた地区意見交換会から委員となり、この地区の非常に厳しい現実を突きつけられながらの会議を経て、今年度開設準備委員会に加わることとなった。

地区意見交換会では、特に五所川原市の立場から、金木高校及び中里高校については危機感を持ちながら出席してきたが、鶴田高校と板柳高校のどちらかは存続するだろうという会議の雰囲気もあり、4校の統合が発表になったときには両町の教育長は本当に驚いたと思う。ただ、進路志望状況第1次調査の結果が11月下旬に発表されたが、今のところ五所川原高校は募集定員に満たない状況であり、この地区の子どもたちの数が少なくなっている現実を突きつけられている。県教育委員会としても、この状況を踏まえていることは理解できる。ただ、市町村教育委員会へは、中里高校が閉校となれば通学支援の要望が出てくることが考えられ、3月議会では確実に出るだろう。高校生に対する支

援は、本来県教育委員会が実施すべきだと考えるが、住民からは市町村に対し要望が出てくるので、議会での対応が必要となっている。その際、保護者の思いも受け止めながら答弁することになるので、今後、県教育委員会への要望等に関わっていくこともあると思う。保護者の通学に対する不安解消に向けて、今後も県教育委員会で検討いたければと思う。

- 私は4回開催された開設準備委員会のうち2回しか出席できていないが、地区意見交換会から委員として加わっており、その会議において様々な議論を重ねてきた。実際に4校の統合が決まり発表となったときには、本当に驚いた。我々が議論してきた内容が取り込まれていなかったものであり、そのことが心残りである。今回の準備委員会で議論を重ねたことを県教育委員会でしっかりと受けとめていただきたい。そうでなければ、これまで時間かけて議論してきたことが無駄になってしまう。

また、この委員会は西北地区統合校開設準備委員会であるが、西津軽郡の関係者は入っていない。確かに西津軽郡の高校はそのまま存続するが、統合校には西津軽郡の生徒も入学するはずであり、西津軽郡の関係者の意見も取り入れるべきではないかと考えていたところである。このことについては、個人的に今後の課題となるのではないかと感じている。委員会がこれまで積み重ねてきた内容を県教育委員会で十分理解願いたい。

- 4回開催された開設準備委員会において、各委員の意見や考えを聞くことができ有意義であった。

それぞれの地域でこれまでの歴史をたどりながら、様々な思いを持って子どもたちは学んできたと思う。統合後は五所川原工業高校の建物は残り、他の3校が集結する形になるが、統合校には子どもたちが新しい思いや気持ちを持って集まると思うので、肩身が狭いことがないように、そして、みんなが自分の学びや進んでいく道を見つけれられるような学校ができることを心から願っている。

現在それぞれの高校に在籍している生徒の気持ちも複雑なものがあると思うが、いずれにしても統合して一つになるということは決まっているのだから、そこに集い、集まった子どもたちが新たな気持ちで自分の進む道や目標をしっかりと見つけられ、そして自分が必要と思えることを学べる学校ができることを心から願っている。

- まず委員長に感謝申し上げます。4回全ての委員会において、各委員1人ずつから意見を聞き、それに各委員がまた答える形で議論を重ねることができ、この委員会は大変有意義なものであった。

第1回委員会の冒頭、私は五所川原工業高校の第1回生であるということを紹介しながら、議論させていただいた。各校には思いがあり、その思いを熱く語っていただき、私もまた熱く語ったつもりである。先ほど金木に住んでおら

ず出席に抵抗感があったという委員から話があったが、私も実は藤崎町に住んでいる。しかし、地域を離れていてもこの地域や学校に対して思いがある。

中学生からは「あの学校へ入りたい」と選ばれる学校に、保護者からは「あの学校に入れたい」という学校に、そして、先生方からは「あの学校で子どもたちを教えてみたい」という学校になってほしい。このことを最後にお願したい。

- 私は第1期実施計画発表後の地区懇談会を傍聴しており、その場の雰囲気を感じている一人である。当時の地区懇談会から比較すると、だいぶ共通理解が図られていると思う。この委員会で意見を交わしたことで、西北五地域の一つの学校として新たに生まれる統合校が、それぞれの思いが詰まったより良い学校になると思う。

また、我々教員としては、統合校に関わることができれば、この学校で学ぶ子どもたち、あるいは保護者、地域の人たちとともに、地域を支えるようなすばらしい人財を輩出していけるような教育活動を充実させていきたい。

- 行政区を超える高校の統合は、難しいとつくづく感じさせられた。板柳高校が統合になることを地域の人々は分かっているはずだが、町内の方々から「なぜ板柳高校がなくなるのか」、「高校がなくなれば地域が疲弊してしまうのではないか」との意見が聞こえてくるなど、板柳高校に対する根強い思いは多くあり、気持ちが収まらない部分がある感じがしてならない。

しかしながら、工業科と普通科を統合するこの学校に入って良かったと言えるような学校を目指してもらいたい。

- 前回の教育改革における統合では、統合した学校同士に温度差があったという反省点あったことを踏まえ、統合校同士が対等に、そしてできるだけ痛みを分かち合いながら統合することを模索しながら発言をしてきた。これが第1期実施計画による教育改革であり、今後も第2期実施計画へと続いていくので、西北地区統合校がモデルケースとなれば、次の教育改革がスムーズに進むと考えながら発言をしてきたつもりである。

各学校にはそれぞれ思いがあり、校章の方向性の検討だけでもこれだけの議論になるというのはその表れだと思う。校章は学校のシンボルでありプライドがかかっているのも、それぞれ意見があるのは当たり前である。そのような事情がある中、報告書（案）をまとめることができ、ほっとしているところである。

ただ、これからのかじ取りが実は難しいだろう。それぞれの項目の方向性は決まったが、もっともっと細かい部分の検討が残されている。来年度五所川原工業高校に設置される開設準備室が大変だと思う。今後もこの開設準備委員会に参加した一人として、できるだけ協力していこうと思っている。

- 私も青森県高等学校将来構想検討会議から西北地区の高校改革の会議に出席してきたが、以前は傍聴席に15、6名おり、地域の高校の存続を求める声が上がっていた。しかし、回を重ねるごとにその数も少なくなり、高校がなくなることが心の底では分かっているが、高校がなくなってほしくないという思いがあふれていたように思う。ただ、子どもたちが少なくなり、こういう結論になったと理解していただいたのではないか。当時の委員として出した結論を悪いとは思っていないが、残念であるという思いは各委員が抱えていたと思う。

開設準備委員会においては、私の非力もあり会議が進まない状況もあったが、議論では本音でぶつかっていただき、委員の思いが報告書の主な意見にたくさんちりばめられていると思うので、各項目の方向性を記したゴシック体だけではなく、主な意見を読んでいただき報告書の確認をお願いしたい。県教育委員会には、西北地区の方々の思いがしっかりと届いた高校として、また県民にとっても思いのある高校となるよう仕上げていただきたい。

4 閉会